

英国や米国では、人口十万人当たりのコロナウイルスの感染者数や死者数は日本より圧倒的に多く大きな打撃を受けたのだが、ワクチン接種率は断然日本を上回っている。このまま推移すればコロナ禍から脱するのは英米が抜群に早く、日本はもたもたして周回遅れになりそうな気配である。英米両国は、自国にワクチン開発に成功した製薬企業を持っていて国民に行き渡るだけ大量のワクチンを確保でき、感染症薬としての緊急承認制度を採ったことで、ワクチン接種を大々的に進めることができたのだろう。

これに対し、一流の科学国であるにもかかわらず、日本はワクチンの大掛かりな治験を行う段階にまで進んだ製薬企業を持たないから英米独の製薬企業からのワクチン輸入に頼らざるを得ない。ところが、これらの国は自国の使用や親密関係国への輸出を優先するから、必然的に日本に割り振る量は少なくなる。日本では、ワクチン接種に

かかる費用を補正予算で六千七百億円確保しているが、そのうちワクチン輸入の経費がどれくらい占めているのか発表していないので正確な金額はわからない。日本がワクチンを喉から手が出るほど欲しがっていることを見透かされて高値を吹っ掛けられ、法外な値段で購入契約をしている可能性もある。

染流行が終息したので補助金を打ち切ってしまった。緊急時には民間の業界にワクチン開発を丸投げして安易に解決を図ろうとし、流行が終わるともはや大掛かりな感染症は起こらないとして、感染症対策から早々に手を引くという方針であった。実際、国立感染症研究所の予算をカットしたため感染症の基礎研究そのものが手薄になっていた

感染者が出て治療薬の需要は途切れないからだ。安倍晋三前首相が抗インフルエンザウイルス薬のアピガンを、いかにもコロナウイルスへの切り札であるかのように推奨したことを思い出す。

日本のワクチン開発の後れが感染症薬の緊急承認制度の欠如にあると指摘されているが、それ以前の基礎研究をサボって応用・実用研究ばかりに目が行く、政府(および企業)の安直な姿勢に主要な原因があることをしっかり記憶しておきたい。(いけうち・さとる // 総合研究大学院大名誉教授)

なぜワクチン開発に後れ?

基礎研究サボった結果



池内 了

なったのだろうか。その根本的理由は、日本政府の感染症への対応の甘さにある。例えば、二〇〇九―一〇年に新型インフルエンザウイルスが流行し、日本でも約二千万人が感染して二百人余りの死者を出した。このとき、厚生労働省は国内製薬企業にワクチン開発のための補助金を出したが、製造に至る前に感

し、不測の感染症のための空きベッドは不要とばかりに病院の民営化・合理化を強行してきた。他方、企業は補助金がなくなると、ワクチン開発のための設備は使わないのに維持費ばかりがかかるからムダとして、インフルエンザの治療薬製造へと重点を移した。インフルエンザは流行の大小はあるものの、毎年

クチン開発では簡単に成功しないのには目に見えている。米国では一兆円もの開発費を投入し、英国やドイツでは遺伝子操作による新型ワクチン開発の研究を続けさせてきたことが功を奏して、一年ほどでワクチンを完成することができた。基礎研究をおざなりにした日本と好対照である。